

# 各指定校事業の成果

## 平成 26～29 年度 英語教育強化地域拠点事業(文部科学省委託事業)

指定校 雲南市立田井小学校, 雲南市立吉田小学校, 雲南市立吉田中学校, 島根県立三刀屋高等学校

本事業では小学校における新たな英語教育の在り方及び小中高を通した英語学習到達目標の設定等について先行的な研究を行っています。平成29年度までの4年間の指定事業ですが、本年度3年次までの取組で明らかになった参考になる内容を紹介します。

### (1)「単元のゴールの明確化, バックワードデザインによる単元設定」

まず単元の終末の児童生徒の姿を明確にし、この姿からさかのぼって各授業の目標、内容を決定します。1時間1時間の授業がこま切れにならず、単元全体を通じて見通しをもって学習を進めることができます。このことにより身に付けさせたい力が明確になるとともに、指導者はもちろん、児童生徒もその終末の姿を目指す授業が展開されることとなります。この単元設定の考え方は、他の教科でも大変有効です。

#### (単元のゴールの例)

##### ○小学校

ALTの家族にビデオレターで吉田を紹介する、吉田にやって来る早稲田大学の留学生に、吉田のよさが伝わるものを選び、英語で紹介する 等

##### ○中学校

修学旅行について中2生徒が中1生徒に英語のプレゼンで説明を行う、中学校入学前の新入生説明会で中学生が小学生に中学校の様子を英語で伝える 等

### (2)「見通しをもたせる展開のスタイルの確立」

1時間の学習の見通しをもたせ、自信をもって学習に取り組ませるために、展開を次のようにスタイル化し、黒板に明示します。授業者も児童生徒も常に安心して学習を進めることができます。

#### (展開のスタイルの例)

「ウォームアップ」→「デモンストレーション」→「アクティビティ」→「振り返り」

### (3)「小学校複式学級におけるペア活動の充実」

小学校複式学級において、上・下学年児童をペアにし、上学年の児童が下学年児童の手本となったり、励ましたりすることで、下学年児童は自信をもって活動したり、発表したりしています。上学年が下学年の学習のモデルとなっています。

### (4)「小中の円滑な接続」

小学校卒業時の児童の姿が明らかになっているので、中学校はその育ちを受けた指導を行います。外国語では特に中学校入学後の文字の指導について課題があることが指摘されますが、小学校卒業時の文字指導の到達点が明らかになっているので、中学校はその到達点から学習を始めることができ、小中の円滑な接続が図られています。特に中学校入学直後は10時間程度の「スタートプログラム」を設定し、小学校卒業時のゴールの姿を踏まえた丁寧な導入を図っています。小学校で身に付けた力が明確に把握され、その力を中学校で直接いかしています。



## 平成 27・28 年度島根県人権・同和教育研究指定校・園

### (1)雲南市立斐伊小学校(兼平成 27・28 年度文部科学省人権教育研究指定校)

①研究主題「お互いのよさを見つけ、認め合い、支え合い、高め合う子どもの育成」

#### ②主な研究内容

- ・人権に関わる事柄の理解を深め、人権感覚を高める授業づくり。
- ・安心して過ごせる仲間づくり、集団づくり。
- ・人権意識を高める環境づくり。
- ・学校・保護者・地域の連携づくり。
- ・人権に関わる教職員研修の充実。

#### ③主な成果

児童の実態把握を基盤に、進路保障の視点で児童に身に付けさせたい力が明確になった研究が進められていました。また、教職員が一体となった組織的な実践により、よりよい人間関係を基盤とした主体的で対話的な学びが展開され、自己肯定感や主体性の高まりが見られました。

保護者の意識調査をもとに、人権・同和教育の学習公開や人権・同和教育研修会等を通して、地域や保護者の理解が深まりました。そして学校・地域・保護者が連携した取組を進めることで、児童が安心してすごせる環境が整いました。

### (2)出雲市立平田幼稚園

①研究主題「自分の力を発揮し、たくましく生活する子どもの育成」

#### ②主な研究内容

- ・自分は大切にされていると実感し、安心して思いを表したり伝えたりするための援助の在り方を探る。
- ・思いを伝え合い、共に生活する楽しさを味わうための援助を工夫する。
- ・子育てをともに楽しむための家庭との連携を工夫する。

#### ③主な成果

園児一人一人の理解を基盤に、教職員・園児相互の信頼感が醸成され、安心して自分らしさを出せる場が保障されていました。特に、振り返りの場を工夫するなど、相手の思いを感じ取り、他者とのよりよい関係を構築することができました。また、組織的な実践で園児の「大切にされている実感」が蓄積され、自他を大切にしようとする気持ちの高まりが見られました。

保護者は、講演会や参加型研修を通して、自分の子育てに前向きな気持ちをもつことができました。また、一人の子どもを複数の目で見ること、子どもの課題を「よさ」として肯定的にとらえることができるようになり、教職員や保護者の人権意識向上につながりました。



所報 第61号

# 管内の教育

## 主な内容

- 1 所長所感 「守・破・離」  
～主体的・対話的で、深い学びを求めて～
- 2 今年度の学校訪問を振り返って
- 3 各指定校事業の成果



出雲教育事務所  
平成29年3月

## 「守・破・離」

～主体的・対話的で、深い学びを求めて～

所長 糸賀和雄

私が校長昇任する際、先輩から「守・破・離」という言葉を引用し助言を受けました。「最初は前任者のものをおよそ踏襲。職や学校に慣れながら他のやり方を取り入れる。最終的には自分らしい学校経営を創る。」確かに最初は見本となる型があると安心ですが、どんな素晴らしい文言でも自分のものになっていないと（特に横文字は・・・）どこかしっくりこない感じがしたことを思い出します。

さて、今年度より「授業の質の向上プロジェクト事業」がスタートし、管内では大津小と掛合小が「算数授業改善推進校」として実践を進めています。2校とも、それぞれのよさを生かしながら学校全体で授業改善に取り組んでいただいています。この事業の主な趣旨は、学力調査の結果から見える課題から、「算数好きの子どもを増やす」ことであり、テーマは「子どもの声でつくる算数授業」です。

先日、大津小で行政職員対象の研修授業を見る機会があり、その授業に感心させられました。

その先生の授業は一見派手さは無いものの、他者との協働・学び合いの中で、子どもたちがよく考え、算数のよさに気づいたり他者のよい考えに触れ自分のものにしていったりしていく学習過程が、ごく自然に組み込まれていました。

私の思う「子どもの声でつくる算数授業」とは、簡単に言えば「教師ができるだけ話さない（余計なことを言わない）」ことであり、「算数好きの子どもを増やす」には、算数が苦手な子どもの視点（思いやつまづき等）で授業づくりをすることだと考えています。

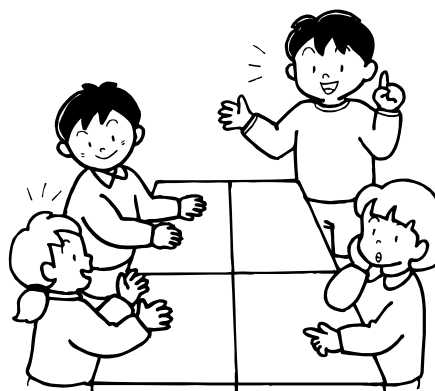
これまで、表面上は活気があってよく見えても「活動あって学びなし」の授業、一部の得意な子どもの発言だけで進み苦手な子どもが置き去りにされている授業、また、その授業で子どもたちが発見すべき大切

なポイントを教師が先走って話し進めてしまう授業等々、少なからず見るがありました。いずれも他者の指導案やいわゆる How to への安易な依存等、教師の学び不足に要因があると思っています。

前述の先生は、子どもへの端的な声かけや発問等を心がけ、授業全体を通して子どもの観察・見取りを丁寧に行い、子どものつぶやきや疑問を即座に取り上げ全体につないでいく。グループを常に意識し考えさせたり、既習の確認に戻したりする。他者の考えを聞くだけに終わらず自分の言葉で説明させ理解を深めさせる等々、一つ一つの手立てから先生の授業への深い思いが見え納得できるものでした。そして何よりも、学級の児童と担任との素敵な信頼関係がこの授業の基盤にあること、普段から、子どもたちにとって「先生は自分の考えや疑問を大切にしてくれる。自分たちをよく見て、よさを生かし納得するまで待ってくれる。」そんな学級経営が行われていることが窺われました。

こうした授業づくりに至るには、これまで常に課題意識を持ち教材研究等は勿論、たくさんの試行錯誤を重ねてきた過程があることは想像に難くありません。

これからの教育のキーワードの一つがアクティブラーニングです。最初は横文字特有の型から始めることとなりますが、型だけに終始し踊らされることなく、そのめざすところを十分理解し自分のものにしていく必要があります。子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、教師自身が常にアクティブラーナーでありたいと思います。





# 今年度の学校訪問を振り返って

今年度の学校訪問指導も2月をもって終了しました。訪問した学校には事前の資料の準備や当日の行き届いた対応等、大変お世話になりました。

管内の多くの学校に訪問指導をさせていただき、印象に残ったこと、引き続きお願いしたいことなど、アンケートに寄せられた声を併せてお伝えします。



## 1 継続型学校訪問指導

今年度は管内の11校から希望があり、担当指導主事が継続的に学校訪問を行いました。この訪問指導では、校内研究がより主体的・自主的な取組となるような指導主事の関わりを大切にしました。それぞれの学校では校内研究が活発に推し進められ、指導主事も共に、研究の進め方、単元構成、学習指導案等を考え、授業を繰り返し観ることで、学校の目指す方向にそった指導・助言を行うことができました。

### 【アンケートより】

- ◇研究授業の指導・講評だけでなく、研究推進の細かいところまで相談させていただくことができよかった。
- ◇継続して指導いただくことで、本校の研究に対して経緯を踏まえて指導いただくことができ勉強になった。
- ◇研究構想の段階から全面的にサポートしていただき、とても助かりました。また、当日の授業だけでなく教材研究から指導案作りまでご指導いただき、実り多い研究となった。

「年度当初の研究の方向性を決める段階で指導を希望する」という要望がありました。訪問指導決定等の手続きは5月半ばとなりますが、平成29年度からは継続型学校訪問指導が決定した学校には、いち早く連絡をとり、できるだけ早い時期から関われるようにします。



## 2 教科等に係る学校訪問指導

今年度はフォローアップ研修、経験者研修とし

て行う研究授業をこの学校訪問指導に併せて実施する学校が30校ありました。人材育成という視点と校内研究の推進という両面から学校訪問指導を有効に活用してもらうことができました。

多くの授業は「見通しと振り返り」、「言語活動の充実」を意識されており、先生方の授業に対する熱意を感じました。一方でいくつかの課題も見えてきました。

### ◇単元を通してつきたい力の明確化

知識・技能の定着のみの指導に偏らないよう、単元の終末で児童生徒にどのような思考力・判断力・表現力を身に付けさせたいのか、明らかにして授業を進めましょう。

### ◇まとめと振り返りのあり方の理解

児童生徒が考え、学んだ道筋に沿ったまとめとなるようにしましょう。冒頭で示したためあてとの整合性を大切にし、教科書の文言をそのまま写す等ではなく、児童生徒の学びの過程と一致したものにしましょう。

振り返りは、授業で学び、考え、身に付いたことを自覚する時間です。ここにこマーク等を○で囲むだけや、ただ感想を書かせるのではなく、視点を明確に与え、できるだけ文字や言葉で表現させ、今後の学習にいかせるものにしましょう。

### 【アンケートより】

- ◇本校の研究の取組、授業のあり方についてわかりやすく助言をいただいた。新学習指導要領改訂の趣旨等、最新の情報について教えていただいた。
- ◇該当教科以外の教員にとっても「生徒の学び」についての見取り」の点で良い研修の機会となった。

◇教材、ペア・グループ学習についての的確なご指導をいただきました。「子どもの声でつくる算数授業」づくりのポイントもわかりやすく示していただきとても参考になった。

### 3 生徒指導に係る学校訪問指導

子どもと親の相談員が配置されている小学校13校とすべての中学校へ訪問しました。どの学校においても、いじめや不登校の未然防止の取組に学校が一丸となって力を注いでいました。

すでに学校では様々な取組がなされ、十分に理解されているところですが、次の2点について確認をお願いします。



#### ◇自校のいじめ防止基本方針の点検・確認

自校のいじめに対する行動計画がどのようになっているのか確認することが大切です。計画の実施により、課題や修正点を明らかにして、次の取組につなげましょう。

#### ◇未然防止へさらなる取組

気になる児童生徒に対しては、関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携をとり、早い段階で不登校の要因を的確に把握し、支援を行うようにしましょう。

また、児童生徒にとって授業の充実を図ることが学校生活をより充実したものにします。授業の質を高めることを軸に、積極的な生徒指導を進めましょう。

#### 【アンケートより】

- ◇いじめ問題の理解と対応について再認識することができた。その内容をもとに職員研修を行うことができた。
- ◇自校のいじめ防止基本方針の見直しの参考になった。
- ◇いじめ問題への組織的な対応が求められている中、そのための示唆をいただき有意義であった。

### 4 特別支援教育に係る学校訪問指導

特別支援学級（通級指導教室を含む）を初めて

担任（担当）する教員、新たに設置された特別支援学級を担任する教員を対象に約40校に訪問しました。

#### ◇新任教員を支える校内体制

特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を整えるとともに、新任教員をサポートできるように相談体制づくりを行いましょう。また、全教職員が特別支援教育に関する理解を図りましょう。

#### ◇特別支援学級の教育課程編成の理解

学級担任だけでなく、管理職、教務主任、特別支援教育コーディネーター等関係者も理解を深め、障がい種に応じた適正な教育課程を編成・実施しましょう。

#### 【アンケートより】

- ◇本校の取組について、経年的視野で指導助言いただき、個別の児童への支援のあり方について明確なビジョンをもつ機会となった。
- ◇初めて肢体不自由障がいの学級担任だったので、児童への声掛け等について指導いただいたことは、それ以後の児童への指導に大変役に立つものだった。他の職員も特別支援教育についての理解が深まった。
- ◇子どもの実態に合った自立活動の組み方、単元構想、支援の仕方、環境づくりなど、適切にご指導いただいた。

上記以外にも「授業を伴わない校内研修」、「講師対象の訪問指導」も行い、学校の要望に応えられるように努めてきました。来年度も学校訪問指導をぜひご活用ください。

出雲教育事務所のHPに、「平成29年度主な研修会予定」、「学校訪問指導の可能日」を随時掲載しますので申込等の際には参考にしてください。

